みんなでつくる元気ないわき公園を目指して　～利用者意識に基づく管理運営の提案～

福島県いわき建設事務所　小川航司　吾妻敬一　渡辺慶行　白石潤　○牧野和樹　菅谷真典　末永翔
福島県いわき建設事務所　正会員　齋藤将人

１　はじめに

近年、社会の成熟化に伴い、人々の社会貢献や自己実現に対する関心や意欲の高まりを背景に、公園においても「協働」をキーワードとして地域住民をはじめ様々な主体が積極的に整備や管理運営に関わることが注目されている。今回の調査研究では、当所で管理するいわき公園の利用者や近隣住民等の公園に対する意識をもとに地域との協働による管理運営について検討した。

２　いわき公園

２．１　概要

いわき公園は、住宅地いわきニュータウンのほぼ中央に位置している。いわき地域を対象とした広域公園として、昭和 48 年に事業認可を受けて、平成 17 年 3 月に全面供用した。

総面積が 71.3ha の園内は特色ある 7 つのゾーンで構成されており、新興住宅地に囲まれている立地条件から、年間約 50 万人に利用されている憩いと潤いの空間となっている。

図１いわき公園の位置

２．２　運営管理における現状と課題

いわき公園の管理運営にあたっては、平成 13 年度から計 3 回の利用者会議が開催され、住民参加、ボランティア、利用者ニーズなどの内容について提言され、これまでその方針に基づいて管理運営を行ってきた。今回改めて現地調査、管理受託者からの聞き取り、公園使用許可資料の分析を行った結果、現状については、近隣住民の利用者が多く利用していることや公園の特徴を活かした地域活動が行われていること、また限られた予算のなかで管理運営（直営管理）していることが分かった。これらを踏まえ、課題は利用者と管理者で協働の管理運営をすることであり、解決するためには、協働の管理運営のための仕組みづくりを整えることが必要であるとした。

よって、今回の調査研究では、イベント、アンケートを通して協働のための仕組みづくりを検討することとした。

３　調査（社会実験）イベント『いわき公園をもっと知ろう！』による施設の紹介とアンケート調査

利用者が公園に積極的に関わるには、まず、いわき公園を知ってもらう必要がある。そのために、公園内にある落ち葉を利用した巨大落ち葉プール、間伐材を利用した My 樹名板設置、丸太切り体験、チッパーのデモンストレーション、防災グッズの紹介等いわき公園の特徴を活かしたイベントを開催した。また、多くの人に来場してもらうために、イベントの周知については公園内の案内板やトイレにポスターを掲示、ホームページへの掲載、新聞社等マスコミへの情報提供を行った。さらに、当日は、イベントの感想や広報の効果を知るために聞き取り調査を行った。アンケート調査は、いわき公園周辺の住民等に公園をどのように利用しているのか、また今後どのように利用したいと考えているのか等について尋ねた。また、いわき公園を利用している人の率直な意見を知るために、公園内で利用の多いゾーンなど 3 箇所に「ご意見カード」を設置した。

４　結果

イベント当日（11 月 22 日）は、曇り空で気温が低いあいにくの天候であったが、全体では約 600 人の来場者があった。巨大落ち葉プールは、今回のメインイベントであったこともあり、多くの来場者があった。ふわふわした感覚は大人でも楽しめるもので、小学生

キーワード：協働、連携、地域住民、社会貢献、公園管理
連絡先：福島県いわき建設事務所　福島県いわき市平字梅本 15 番地　　電話 0246-24-6117（企画調査課）

以下を対象にした宝探しゲームは準備した景品が足りなくなるほどの人気があった。訪れた人たちは、「いわき公園で落ち葉がこんなに集まるなんて！」とびっくりした様子であった。

アンケート調査結果からは、四季の魅力が楽しめることや安全で施設が整っていること等からウォーキングや植物観察に利用していることが分かった。ご意見カード結果からは、施設管理が行き届いているという評価がある一方、施設案内板がもっと必要であるなどの意見があった。また、一番多かったのは、犬の糞の放置や放し飼いなどマナー向上についての意見であった。加えて、桜の害虫駆除など植栽管理についての要望や木道が滑りやすいなど安全安心の充実についての意見も多かった。

写真１　巨大落ち葉プール

写真２　My 樹名板

５　考察

周知期間が短かったにもかかわらず、多くの来場者があり、家族連れや障がいがある方など様々な人に参加していただいた。楽しかったとの感想が多かったが、案内板、広報、遊具管理の充実を図ってほしいとの意見があった。これらのことから、周辺住民はいわき公園に高い関心を持っていることが分かった。さらに、継続的にイベントを開催してほしい、ボランティア活動に参加したい、ウォークラリーをしたいとの意見が多かったことから、いわき公園は地域活動に利用できること、住民の地域活動の参加意識が高いことが分かった。

住民等へのアンケート、ご意見カードの結果からは安全性、利便性、季節の楽しみ等から軽運動や生物観察の場として利用していることが分かり、公園を身近に感じていることが分かった。学校関係者からは、公園の安全性を求める意見、団体で利用する方においては、公園管理者との連携や団体相互の交流を求める意見が多かった。

６　提案

６．１　３つの取り組み

調査結果から、周辺住民にはいわき公園に積極的に関わりたいという意識があることが分かった。この意識を活用するためには、管理者と利用者の連携が必要である。連携するためには次の３つ取り組みが必要と考える。

①管理と融合したイベントの開催

管理の要素を取り入れたイベントを継続的に行うことを提案する。具体的な内容として、花植え、樹木の苗植え、清掃活動、パトロール体験等を開催する。

②公園の情報発信

公園内における地域活動の取り組み内容や季節の話題（花の見頃等）について情報を提供する。

③地域と協働による公園管理

利用者と公園の管理や利活用方法について意見を交わし、互いに協力して実践する。

６．２　公園サポーター制度の創設

公園サポーター制度は、協力者と管理者とが相互理解し、協働するための制度である。上記３つの取り組みを具現化するためには、公園を利用して自主的に活動している団体など、公園に関わりたいという意識が高い人たちの協力が必要である。

（公園サポーターの行政的な意義）

公園サポーター制度は、いわき公園周辺の住民等が持っている社会貢献や自己実現の欲求を満たし、住民の充実した豊かな生活を送ることに寄与する。また、住民が管理に携わることで公園に愛着を持ち、多くの人の目が行き届くなど、適切な管理運営に寄与すると考える。

〈参考文献〉

２００９福島県の都市計画（福島県土木部）、都市計画総論（鹿島出版会）、公園緑地［2009Vol.70］（(社）日本公園緑地協会）